

## 2024 年度 第 3 回 研究例会

実施日：2025 年 2 月 27 日 @社会福祉学部棟 301 講義室

### 1. 報 告 者：准教授 板倉有紀

報告テーマ：「脆弱性を支える地域社会」

#### 【報告要旨】

##### (1) これまでの活動

岩手県や秋田県を主なフィールドとして、災害の社会学的研究を行ってきたため、その概要について報告した。必ずしも災害弱者とカテゴライズされないけれども、多様なニーズを有する方々（災害とジェンダー問題など）への支援について、専門職とくに保健師活動に注目してきた経緯を説明した。その後、地域での色々な専門職の活動に関する調査をする機会があったので、認知症とまちづくりに関する業務や、秋田県でのフィールドワークについて紹介した。共通しているのが、脆弱性（ヴァルネラビリティ）ではないかという点、一般的な地域住民というよりも専門職の活動に焦点化してきたという点を説明した。

##### (2) これからの研究

社会学関連の研究者という立場から、岩手県の地域的なニーズを探りつつ、以下のような研究を行えばという展望をしめした。認知症とまちづくりに関する研究、地域と専門職に関する研究である。具体的にこの地域でこういうことをするという計画は示さず、全体的な問題関心のみ提示し報告を終えた。

### 2. 報 告 者：教授 櫻 幸恵

報告テーマ：「自己調整学習を促す実践事例 ー複合的海外研修プログラムの試みー」

#### 【報告要旨】

自己調整学習を促す実践事例として、社会福祉学部生を対象としたニュージーランド研修(NZ 研修)の研修目的やプログラム概要、実践評価などを報告した。本研修は、単なる海外視察とは異なり、地域の子どもの課題解決に向けた支援実践と海外研修を組み合わせた複合的なプログラム構成に特徴と意義がある。学生は、「多面的に見る力」「対話し協働できる力」「行動できる力」を獲得目標に研修に臨む。子どもへの支援内容を決め、子ども支援の先駆的知見と子ども支援の資金獲得のため海外研修に出かける。フィールドは NZ の教育福祉やソーシャルワークの実践現場である。支援の専門職から話を聴き知見を深め、NZ 市民に対するファンドレイジングを自ら企画し、売り上げと寄付金を獲得、帰国後に子ども支援活動に活かす。自己調整学習＝学習者が目標を達成するための一連の能動的な学習プロセスを踏んでおり、ICE に基づく事後評価にもその効果が表れている。